

※一般質問の内容は、議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。



うすい ゆきこ
臼井 由紀子
(富岳会)

認知症の人が安心して自分らしく暮らせる地域づくりについて

問 認知症カフェの主体、現在の数及び内容を伺う。

部長 実施主体は特に定めはなく、認知症の人、その家族、認知症キャラバンメイト、介護事業所、高校生等多様。現在21ヶ所のカフェがあり、会話を楽しむ、ソフトボール、畑の土いじり、打ちっ放しゴルフ、お散歩等、特定のジャンルにとらわれない多様な活動が広がっている。

問 認知症カフェを今後どのように展開していくのか伺う。

部長 現在、富士宮市の高齢者福祉計画及び介護保険事業計画で日常生活圏域に1ヶ所以上設置することを目指しているが、既に全ての圏域にある状況。認知症カフェの設置主体は市で

あり、立ち上げる際には主催者とその地域を担当する地域包括支援センター及び市の職員が話し合いを行い、広報啓発活動等の支援をしている。市民活動災害補償制度の対象にもなっている。年1回の認知症カフェ合同連絡会を開催しているが参加者の移動などに課題があることも感じ、今後も認知症カフェの取組を支援していく。

問 今後の運営費の補助について。

部長 市からの運営費補助は今のところ行っていない。認知症カフェ連絡会でも上がってきていないが、そのような声が上がってくれば別である。

市長 認知症カフェについて、色々と勉強させてもらって応援できることは取り組む。

地域防災計画と避難所について

問 ペット同行避難の取組について。

部長 令和5年度からペット避難スペース設営と運営マニュアルや物資を取りまとめたスターターキットを各避難所の防災倉庫に配備。今後市民に広く周知を図り、実習を開催する。



もちづき よしまさ
望月 芳将
(無会派)

子ども医療費無償化の実施時期は

問 市長の選挙公報に、子ども医療費無償化とあるが、実施時期はいつからか。

部長 0歳から18歳までの市民の入院費(食事代含む)や通院費の医療費自己負担を無償化することを、令和6年10月1日の子ども医療費受給者証の切り替え時期に合わせて実施する予定。なお、予算は約1億5千万円の増額で、総額6億6千万円となり、うち一般財源は4億6千万円となる見込みである。

問 時期が空いての実施となるが、早期に実施できないのか。

部長 各医療機関との調整が一番大事であり、医師会と調整期間を考えて、令和6年10月1日の受給者証切り替えのタイミングで行いたい。

市長 私も早期に実現したいが色々と事務手

続きをするのには、やむを得ないと判断した。

第2子以降の保育料無償化と学校給食費無償化について

問 第2子以降の保育料無償化は国の動向によっては実施しないのか。

部長 まずは国の動向を注視し、市長会を通じて要望する。市では令和5年5月に少子化対策推進本部を設置したため、総合的に議論する。

問 学校給食無償化を早期実現できないか。

部長 学校給食無償化は国の調査・検討方針が定まったばかりで、検討内容を注視し、早期実現できるよう国に積極的に働きかける。

意見 令和4年度の予算の執行状況(令和5年前期富士宮市財政事情)を見ると、一般会計で約50億円残金が生じており、繰り越し分の約10億円を引いても約40億円残る。そのうちの1割の4億円程度を財源として少子化対策や高齢者対策に使っていただきたい。